学習アレこれ

「男女共同参画」について

「日本女性会議2003おおつ」への参加

逸　見　奈保子

開催準備に２年を要し、参加者は日本全国から3500人。今年が20回目という、なんともスケールの大きな大会でした。男女共同参画社会実現のため、今、何がどう進められ、どんな活動が行われているのか、自分には何ができるかを自分のテーマに出席しました。

男女雇用機会均等法を制定させた立法責任者　赤松良子氏（元　文部大臣）の『女性がもっと政治に参画することで、戦争が無くなるかもしれない』という基調講演が心に残ります。シンポジウムでは「若い世代から見た男女共同参画のみらい」と題して、研究員として若い男女６人が提言し、現状と未来を語り合いました。中でも、女性が同性の上司を嫌がる傾向があり、女性自身の意識改革が必要というコメントが印象的でした。市民団体のかたが多く、謙虚でありながらなおかつ積極的でした。

これからの日常生活の中に男女共同参画やジェンダーに敏感な視点を意識して、自分の歩幅で努力していきたいと思います。

日本女性会議
1975年の「国際婦人年」とこれに続く「国際婦人の10年」を記念して、女性の社会的地位向上のため開始。1984年名古屋市で開催されてから、毎年国内の都市で開催されています。
2002年には青森市でも開催されました。

一本木沢クラブ　学習会

東地区の一本木沢クラブ（一本木沢町内会）は夫婦単位でいろいろな活動を行っています。特に、パークゴルフに夢中。

11月３日にシーズン最後の大会を終え、反省会の前に青森県男女共同参画推進員による男女共同参画についての学習会を行いました。マンガや教材を使っての話に「無意識のうちに、自分たちの中に男女の役割についての固定観念があるかもしれない。お互いの思いやりの中で、互いにできることをやるという意識が必要なのかも」と参加者は話します。

一本木沢クラブはこれまでも、「救急法」や「お年寄り疑似体験」などいろいろな勉強会を開き、男女間のことだけでなく、広く、お互いを尊重し、協力し合って町内会を盛り上げて来ています。（活動費の残金等を毎年、市に「図書購入費」として寄付しています）

※青森県男女共同参画推進員
地域における男女共同参画推進のために、県内各地で自主的かつ自発的に活動しています。

しゃべって　語ろう会（かだ）

毎月第３水曜日に集っています

４月19日・５月21日

「ゆっパル」の感想と日頃感じていることを自由におしゃべり。盛り上がりました～。

何気なく使っている言葉や行いなど、自分では気づかないことをお互いに指摘しあって、初めて気づく…。

６月18日

生涯楽習「きらめき講座」を受講。
『市の予算の仕組み』（財政課）
『市町村合併のはなし』（企画調整課合併対策室）を。

７月16日

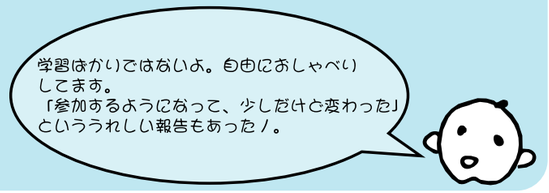
前回の『市町村合併のはなし』を再度リクエスト。

８月20日

“ジェンダーに敏感な視点”で物語を読んでみました。

12月17日・１月21日

『らくらくメンタルヘルス』と題して、自分と配偶者・パートナーの心と身体の元気（ストレス・うつ病・更年期）について市健康推進課の保健師さんからお話を伺いました。



ヌエック「女性のエンパワーメント支援セミナー」

ヌエック…独立行政法人 国立女性教育会館(National Women's Education Center)の略称

佐々木　栄　美
（食生活改善推進員会）

このセミナーに参加してまず驚いたこと、それは、講義のあとすぐにグループ分けがされ、討議、そしてワークショップ、の繰り返しだったこと。

ただ受身の姿勢で臨んだ私にとって、まさに過酷なプログラムで、エンパワーメントって何？ジェンダーってどういうこと？今さらそんなことを言っていられない雰囲気が、全国の行政・市民団体・NPOからの、日頃から男女共同参画社会推進に真剣に取り組んでいる参加者から漂う…。参加者の意欲的、積極的意見交換にたじたじ…、パワーに圧倒されっぱなし。ちょっとでもそのパワーにあやかろうと耳も目も最大限に使って情報を吸収し、夜の時間も錆び付いた頭を叩きながら復習した。

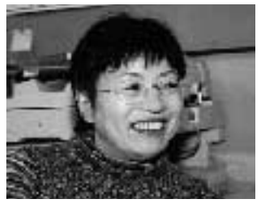
けれど、理解力には限界があり、疲れ切った末にわかったことは、私自身の中にジェンダーがしっかり根づいていること。そもそも、３泊４日の研修のため家を空けることの大変さ、難しさ、そこから考え直してみなければと感じた。

ワークショップではNPOの活動をしているかたから具体的に活動の内容を聞くことができて、地域に帰ってからの勉強にも役に立つと思いました。もっと勉強しなくてはと思い知らされました。ファシリテーターの役割、男女共同参画の広報の作り方などなど、今後活動していくために参考になる内容ばかりでした。全国の参加者の活動を聞くことができて、本当に参加して良かったと思いました。

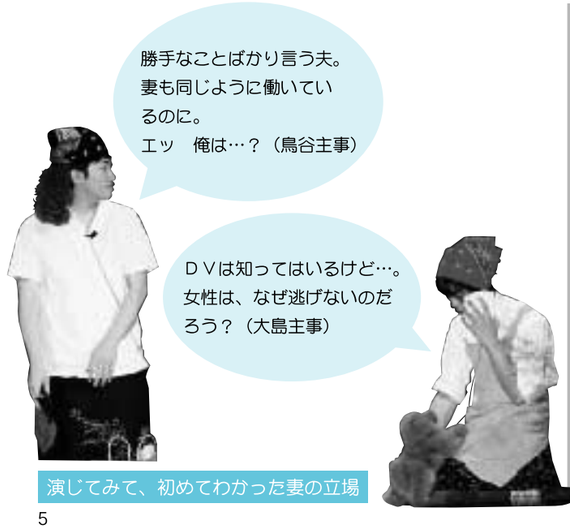
このセミナーへの参加の誘いを受けた時、ジェンダーについての学習と地域活動をしたいと思っていたので、悩んだ末参加することにしました。

しかし、全国からの参加者は、すでに地域での活動やNPO活動をしているかた、男女共同参画行政・家庭教育行政担当者がほとんどで、これからの活動に役立てたいために参加しているということではなく、すでにリーダーとしてさらにレベルアップをはかるというような雰囲気でした。

幸いにも、講義（講師のほとんどは大学教授）はわかりやすく、大変勉強になりました。また、



国　分　隆　子
（Ｉ女性会議十和田支部）

“夫に暴力をふるわれる妻”を演じた男性（広報交流女性課職員）２人の感想

７月19日「輝く女と男フォーラム２００３」での「ＤＶ気づきの寸劇」を終えて